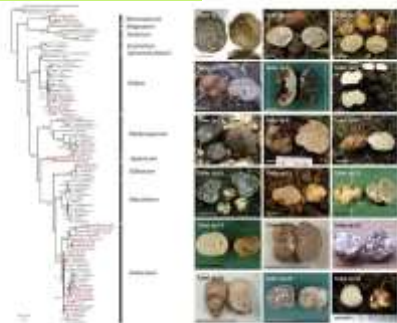


国産白トリュフ・ホンセイヨウショウロ の栽培に成功！

研究の背景



日本でも栽培
できないか？



アジアクロセイヨウショウロ
Tuber himalayense

“アジアの黒トリュフ”
として中国産が世界に流通



ホンセイヨウショウロ
Tuber japonicum

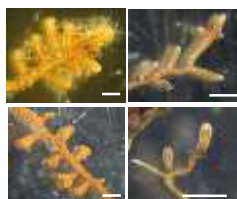
日本固有種
成熟すると、本場の白トリュフ
に類似した香り成分を放つ

日本には多様なトリュフが自生

広汎に分布し、生産量が高く、香りの強い
2種を対象に栽培研究を開始（2015年～）

栽培手順 1 トリュフ菌の接種、苗木の作成

トリュフは樹木共生菌のため、3樹種への
接種試験を行い、ポット苗木を作成しました



2種のトリュフを3樹種の苗木に接種

アカマツ、コナラ、クヌギに接種し、菌根苗木を作成

栽培手順 2 トリュフ園の整備、苗木の植栽

発生地の土壌環境を調査、圃場で再現し、
トリュフ苗木を植栽しました



pH(H₂O)、交換性塩基 (Ca, Mg, K)、
全炭素・窒素、微生物バイオマス炭素
・窒素、微生物相

発生土壌環境を調査



種類ごとに施肥を変える



2017年4月
トリュフ苗木を植栽



2022年9月
トリュフ発生試験
(国内4試験地)

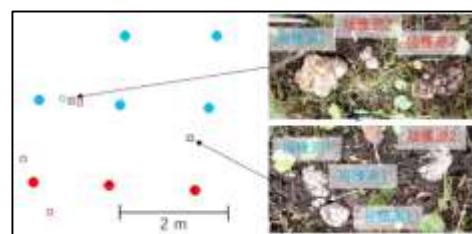
ホンセイヨウショウロが発生！

生産量79kg/ha。欧州において
よく管理されたトリュフ園に匹敵する量



SSRマーカーで
接種源と同一株
であることを確認

2022年11月 京都府：14個 (266.4 g)
2022年11月 茨城県：8個 (38.6 g)



本研究は生物特定産業研究支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業(課題番号: 04008B1)」により実施している



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所

森林総合研究所で研究中の「国産白トリュフ・ホンセイヨウショウロの栽培に成功！」についてご紹介します。

トリュフは高級食材として世界的に知られるきのこ類の一つですが、日本国内にも多様なトリュフ種が自生しています。森林総合研究所では、国内で自生するトリュフのうち、食用として有望な2種のトリュフの栽培化を目標に、2015年より研究を行なってきました。そして2022年、日本の白トリュフであるホンセイヨウショウロを接種した苗木の植栽地2ヶ所からきのこの発生を確認しました。発表では試験開始から発生に至るまでの経緯について紹介します。